

令和元年度第1回浦安市総合計画審議会議事録

1 開催日時 令和元年5月23日(木) 午後5時00分～午後7時00分

2 開催場所 市役所4階 S2・S3会議室

3 出席者

(委員)

坂本森男会長、村木美貴副会長、石川好信委員、男全寛子委員、樂々道夫委員、五月女香代子委員、相原勇二委員、大川三敏委員、大塚久美子委員、大塚真理子委員、加藤升委員、小林澄子委員、齊藤榮一委員、佐久間清委員、高橋洋介委員、福元明彦委員、窪園博俊委員、近藤さなえ委員、寺村絵里子委員、本庄篤子委員

(事務局)

内田市長、小檜山企画部長、山崎企画部次長、土久企画政策課主幹、春田企画政策課課長補佐、峯崎企画政策課副主幹、竹森企画政策課副主幹、岡本、戸邊、武内、石坂、野村、大木、広瀬

4 議題

- (1) 浦安市の現状と課題
- (2) 基本構想素案
- (3) 基本計画構成案

5 議事の概要

(1) 会長の選任等

委員の互選により、坂本委員が会長に、村木委員が副会長に選任された。

(2) 会議の情報公開について

浦安市における各会議の情報公開の方針等について、事務局より説明があり、本会議を公開することが了承された。

(3) 総合計画策定経過について

総合計画の策定にあたり、審議会の今後の進め方や、浦安市の現状と課題、基本構想の内容、基本計画の構成について事務局より説明があり、その後質疑がなされた。

(4) その他

次回会議以降の開催は、令和元年7月24日、令和元年8月8日と決定した。

6 会議経過

会長：事務局より説明いただいた議題について、まずはお一人ずつご意見をいただきたいと思います。時間が限られており恐縮ではありますが、1人当たり2分程度でご意見・ご感想等をお願いします。

委員：資料1-3にある<序論>「第1章 新総合計画の策定にあたって」の「3 新総合計画の特徴」の「(3) 適切に進行管理ができる計画」において、PDCAサイクルを繰り返し行っていくとありますが、どの程度の頻度で行うかについて検討しておいた方がよいと思います。

資料1-3にある<序論>「第2章 まちづくりを取り巻く現状と課題」の「3

人口から見た本市の状況」の「(7) 将来的な人口の見通し」に関して、本市の総人口の将来推計によると、令和49年(2067年)には、平成19年(2007年)と同水準の約15万人となることが示されています。平成19年(2007年)以降に住宅開発等が進んでいることを考慮すると、余剰住宅ストックが発生すると予想されますが、どのように対処していくのか考える必要があります。

また、全市で将来人口推計を実施していますが、元町・中町・新町の町丁目くらいでの将来人口推計を行い、年齢区分別人口の構成を把握することにより、地域の特性が見えてくると思います。

高齢化社会を迎え、高齢者施設の設置も増加していくと考えられますが、同時にその後の用途転換まで見据えておく必要があると思います。

委員： 高齢者の健康寿命の延伸をどのように図っていくかについて、検討が必要だと思います。

委員： 資料1-3にある<序論>「第2章 まちづくりを取り巻く現状と課題」の「3人口から見た本市の状況」の「(1) 人口総数の推移」に関して、世帯人員の減少に係る内訳を詳細に見た方がよいと思います。本市においても単身世帯の増加が予想されますが、それが高齢者の単身世帯なのか、若年未婚者の単身世帯なのか等、対象により実施すべき施策が変わってくるはずで、家族のあり方が多様化することで、市民が抱える問題も変わってくると思います。

委員： 資料1-5にある<基本構想>「第4章 都市構成の基本的な考え方」において、都市構成の考え方として、3つのゾーン(住宅ゾーン、工業ゾーン、アーバンリゾートゾーン)を挙げていますが、20年後も果たして同様であり続けるのか、今後の考える変化について検討すべきだと思います。

中学校・高校等への進学を機に学生の市外流出現象が起きており、それに伴い学生の親も市外へ流出している可能性があると思います。学校教育や教育機関の観点から、今後の市の変化について、検討してもよいのではないのでしょうか。

委員： 資料1-6にある<基本計画構成案>「第3章 重点プロジェクト」に関連して、浦安市新総合計画序論素案において浦安市の現状整理として様々な項目が網羅されていますが、市として対応できることは限られているので、重点的に取り組むべきポイントを定めた方がよいのではないのでしょうか。

資料1-3にある<序論>「第2章 まちづくりを取り巻く現状と課題」の「2国内の社会経済動向」の「(1) 本格的な人口減少・超少子高齢社会の到来」に関して、人口減少社会の中でいかに市内に人を集め、定住してもらえるかが大事になってくると思いますが、相当に外国人が定住することが予想されます。その際に外国人の受入れに関する課題も数多く出てくると思いますので、念頭に置いておく必要があります。

委員： 本市の生涯学習の推進計画懇談会にも携わっており、今後どのように総人口やスポーツ人口を増やしていくか等について検討しているところです。本審議会においても、意見交換を通して計画内容の充実を図っていきたいと思います。

委員： 資料1-6にある<基本計画構成案>「第4章 施策の体系」について、課題と施策の対応関係が分かる形で示した方がよいと思います。

資料1-3にある<序論>「第2章 まちづくりを取り巻く現状と課題」の「3人口から見た本市の状況」の「(7) 将来的な人口の見通し」に関して、例えば人口の減少カーブを緩やかにさせる等、将来の見通しに対しての立ち位置により今後の施策の方向性も変わってくると思うのでご検討ください。

資料1-3にある<序論>「第1章 新総合計画の策定にあたって」の「3 新総合計画の特徴」の「(3) 適切に進行管理ができる計画」において、PDCAサイクルの評価基準は定量だけでなく、定性・定量の双方から評価した方がよいと

思います。

委員： 地域が共同で子育てを行うことにより、良好な親子関係の構築やいじめの減少につながるのではないかと思います。

委員： 資料1-3にある<序論>「第2章 まちづくりを取り巻く現状と課題」の「3人口から見た本市の状況」の「(6) 滞在人口の動向」に関して、定住人口が減少するのであれば、滞在人口の取り扱いが大きな問題になると思います。定住化促進に向け、商工業やアーバンリゾートとの連携が重要になってくると思います。

委員： 本市に対する愛着、マインドやトレンド等といったものはグラフにはあらわれない部分があると思います。

委員： 資料1-3にある<序論>「第2章 まちづくりを取り巻く現状と課題」の「3人口から見た本市の状況」の「(3) 地域別高齢化率の推移」に関して、中町は比較的古い大規模団地が多くあると思いますが、そのようなところで高齢化に伴う問題等にどう対処していくかについて特に検討が必要だと考えています。

委員： 現在の本市のイメージは財政的にも優れ、人口構成も生産年齢人口が多くよいものと思っていましたが、近い将来、空き家・空き室の問題や学校の統廃合等、他の市町村で起きている問題が本市でも生じうることを実感しました。

外国人についても、現状ではテーマパーク勤務の方々が新町に多く居住していますが、今後、例えば移民の方など様々な状況下の外国人の流入もありうるので、対応について検討した方がよいと思います。

委員： 資料1-3にある<序論>「第2章 まちづくりを取り巻く現状と課題」の「2国内の社会経済動向」の「(2) 技術革新の進展による新たな価値の創出」に関して、超高齢化社会を迎えるにあたり、AIを活用した高齢者の生活支援の推進等、高齢者にやさしいまちを目指してはどうでしょうか。

また、市内から流出した若者や、市外からの若者を呼び込み、定住化を促進する取り組みが必要なのではないかと思います。

委員： 高齢者に対する取り組みを検討する際には、様々な状況下にある高齢者（低所得の高齢者、ひとり住まいの高齢者等）への配慮があればよいと思います。

資料1-3にある<序論>「第2章 まちづくりを取り巻く現状と課題」の「2国内の社会経済動向」の「(1) 本格的な人口減少・超少子高齢化社会の到来」に関して、少数の若者が多数の高齢者を支える“肩車式社会”の到来が予測される中では、多くの高齢者が活躍し続けられる社会を目指すのがよいのではないのでしょうか。

委員： 高齢化により歳入がどのように変化していくのかを提示していただいて、その変化への対応の考え方を示していただきたいです。

行政の継続性は担保されるべきであり、現行の総合計画と新総合計画とのつながりがどうなっているのかについては、市民にも分かりやすく示すべきだと思います。

委員： 高齢者が集える場づくりとして、経済的に豊かではない人であっても商品やサービスを利用しやすい環境づくりが求められるのではないかと思います。

社会福祉協議会では行政では手の届かない案件を受けていますが、その需要は多く、内容は非常に多様です。今後厳しくなる財政状況のなかで、どこまで支援していくのか、難しい課題だと思います。

浦安ではシングルマザーが増えています。生活困窮ではない方だと、誰がどのような問題で困っているのかわかりづらいため、状況を見えやすくするといった対策が必要であると思います。

委員： 元町地区は家賃が安く、共同住宅でも借りやすい物件が多いため、単身世帯の需要が多く、若い世代の人も来ていると考えられます。住みやすく、若者が気軽に住めるまちを目指してもよいのではないのでしょうか。

浦安市の福祉は充実していると感じていましたが、近年は担い手の確保が課題となっている点について考慮できるとよいと思います。

委員： 中町・新町は家賃が高く、若者が入居しづらいと聞いています。若者が居住すれば、親も同居して定住者の増加を目指せるのではないのでしょうか。市内各地域の人口構成分布の平準化を図った方がよいと考えます。

委員： 滞在人口増加のためにホテルを建設するのはよいが、滞在者の急患対応が多くなり、市民の急患への対応が手薄になってしまうのは問題であると感じています。また日本語での診療が難しい外国人の患者等への対応について、検討が必要と考えます。

会長： 初回ではございましたが、様々なご意見等をいただきありがとうございました。皆様からいただいた感想やご質問等は事務局の方で整理し、次回報告させていただきます。

以上